

大気環境 (2008年4月)

- 光化学オキシダント：光化学スモッグ注意報は発令されませんでした。
- 二酸化窒素：一般局は全局で環境基準値に適合しました。自排局は87%以上の日数で環境基準値に適合しました。
- 浮遊粒子状物質：一般局・自排局ともに全局で環境基準値に適合しました。
- 二酸化硫黄：一般局全局で環境基準値に適合しました。

		二酸化窒素(N ₂ O ₂)				浮遊粒子状物質(SPM)				
		月平均値 (ppm)	環境基準の適合状況				月平均値 (mg/m ³)	環境基準の適合状況		
			日平均値が 0.04ppmを 超過した 日数(日)	日平均値が 0.06ppmを 超過した 日数(日)①	日平均値が 0.06ppm 以下の日数 (日)②	環境基準値に 適合した 日数割合(%) (②/(①+②))×100		日平均値が 0.1mg/m ³ 超過 または1時間値 が0.2mg/m ³ を 超過した日数日①	日平均値が 0.1mg/m ³ 以下 かつ1時間値 が0.2mg/m ³ 以下の日数日②	環境基準値に 適合した 日数割合(%) (②/(①+②))×100
一般環境 大気測定局	大師	0.028	5	0	30	100	0.028	0	30	100
	田島	0.029	7	0	30	100	0.027	0	30	100
	川崎	0.028	4	0	23	100	0.029	0	30	100
	幸	0.025	0	0	29	100	0.030	0	30	100
	中原	0.024	1	0	30	100	0.025	0	30	100
	高津	0.023	0	0	30	100	0.028	0	30	100
	宮前	0.022	0	0	30	100	0.021	0	27	100
	多摩	0.019	0	0	30	100	0.026	0	30	100
	麻生	0.016	0	0	30	100	0.024	0	30	100
	平均	0.024	2	0	29	100	0.026	0	30	100
自動車 排出ガス測定局	池上	0.045	20	1	29	97	0.030	0	30	100
	日進町	0.031	8	0	30	100	0.027	0	30	100
	市役所前	0.036	13	0	30	100	0.028	0	30	100
	遠藤町	0.047	24	4	26	87	0.029	0	30	100
	中原平和公園	0.027	1	0	30	100	0.028	0	30	100
	二子	0.046	19	2	28	93	0.029	0	30	100
	宮前平駅前	0.032	6	0	30	100	0.030	0	30	100
	本村橋	0.031	3	0	30	100	0.025	0	30	100
	柿生	0.027	0	0	30	100	0.025	0	30	100
	平均	0.036	10	1	29	97	0.028	0	30	100

(注) 本データは最終確定値ではありませんので、後日修正することがあります。

[訂正] 429号(5月1日発行)において、誤植がありましたので次のとおり訂正します。 「大気環境」表題下のコメント欄：「二酸化炭素⇒二酸化窒素」

環境基準

- 1 二酸化窒素：1時間値の1日平均値が0.04ppmから0.06ppmまでのゾーン内又はそれ以下
- 2 浮遊粒子状物質：1時間値の1日平均値が0.10mg/m³以下、かつ、1時間値が0.20mg/m³以下

詳しい測定データは、公害監視センターのホームページ

(<http://www.city.kawasaki.jp/30/30kansic/home/index.htm>)

または下記までご連絡ください。

問い合わせ：環境局公害監視センター ☎200-2536

河川の水質 (2008年4月)

4月の水質は、14地点中13地点で環境基準値又は環境目標値に適合していました。

測定点	項目	BOD (mg/L)	環境基準値 (mg/L)	測定点	項目	BOD (mg/L)	環境目標値 (mg/L)
多摩川本川：	多摩水道橋	1.0	3	二ヶ領用水円筒分水下流：	今井仲橋	1.9	3
多摩川本川：	二子橋	1.2	3	二ヶ領用水宿河原線：	出会い橋	8.5	3
多摩川本川：	六郷橋	1.2	3	五反田川：	追分橋	1.2	3
三沢川：	一の橋	2.1	5	片平川：	片平橋下	1.7	8
二ヶ領本川：	堰前橋	2.3	3	麻生川：	耕地橋	4.6	8
平瀬川：	平瀬橋(人道橋)	1.6	3	真福寺川：	水車橋前	1.5	8
				有馬川：	五月橋	2.9	10
				渋川：	渋川橋	1.4	10

注1：多摩川本川の3地点については、国土交通省からデータ提供を受けているものです。

注2：環境基準及び環境目標の達成状況は、年間データで判断しています。

問い合わせ：環境局環境対策課 ☎200-2520

大気・騒音などの苦情発生・解決状況(平成19年度)

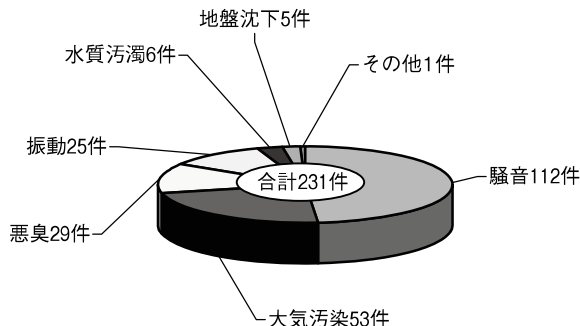
平成19年度に発生した大気汚染や騒音振動等の苦情発生総件数は231件で、騒音が最も多く112件(全体の48%)、次いで大気汚染の53件(23%)、悪臭の29件(13%)、振動の25件(11%)、水質汚濁の6件(3%)、地盤沈下の5件(2%)、その他の1件(0.4%)でした。このうち騒音及び振動の苦情の発生源として最も多かったのは建設作業に関するもので、それぞれ37件(騒音苦情の33%)、17件(振動苦情の68%)でした。また、大気汚染に関しては、ばい煙苦情が33件(大気汚染の62%)と大半を占めますが、粉じん苦情では建設作業に関するものが14件(粉じん苦情の74%)でした。

なお、前年度と比較すると、総数では25件(10%)の減少を示しました。その内訳をみると、騒音が38件、振動が24件、その他が4件、地盤沈下が1件減少しました。一方、大気汚染が26件、悪臭が12件、水質汚濁が4件増加をしました。

解決状況については、越年苦情の解決もあり総数は286件で、騒音が最も多く165件(58%)、次いで大気汚染の51件(18%)、悪臭の32件(11%)、振動の29件(10%)、地盤沈下の4件、水質汚濁の4件、その他の1件でした。

環境対策部では、今後も市民、事業者の皆さんのご協力を得ながら、苦情の発生防止とその解決に努めてまいります。

公害苦情の発生状況



問い合わせ：環境局企画指導課 ☎200-2507 FAX200-3922

今年はギンヤンマがいっぱい ~水生昆虫ふれあい教室~

6月4日(水)に中原区の平間公園児童プールで「水生昆虫ふれあい教室」を開催しました。今年は2日に梅雨入りしたうえ、台風の接近で前日が大雨となり開催が危ぶまれましたが、当日は幸運にも晴れ間が見られました。

この教室は、プール清掃によって羽化しないまま排水溝に流されてしまうヤゴの救出・観察を通じて、生きもの大切さを学んでもらうために開催しています。今年の参加者は子ども・保護者約240人で、子どもたちは直接プールに入ってアキアカネやシオカラトンボ、ギンヤンマのヤゴを救出しました。今回は、昨年20匹くらいしか助けられなかったギンヤンマのヤゴを300匹以上救出ことができました。プールのあちらこちらで「やった!いた!大きい!」と歓声が上がり、中には一人でギンヤンマのヤゴを10匹以上助けた子どももいました。その後、救出したヤゴの飼い方を教えてもらった子どもたちは、自宅に持ち帰りトンボになるまで育てます。救出したヤゴがトンボになり元気よく大空を飛んでほしいと思います。



ヤゴレスキューを楽しむ子どもたち



ギンヤンマのヤゴいるかな?

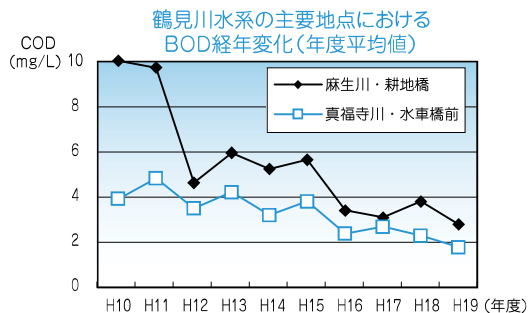
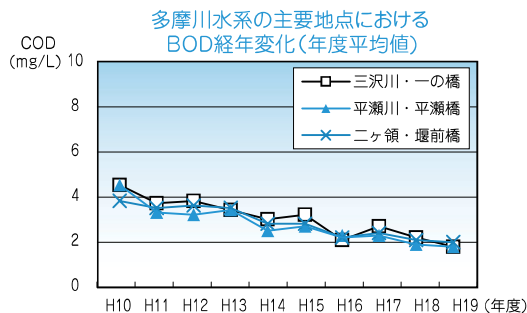
問い合わせ：環境局環境対策課 ☎200-2520 FAX200-3922

平成19年度公共用水域及び地下水質調査結果

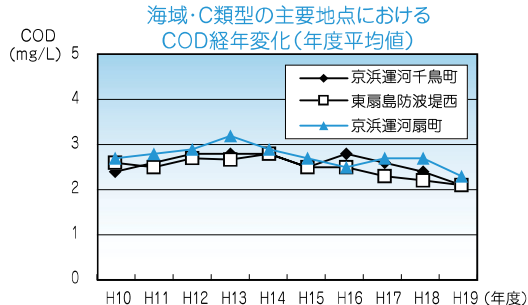
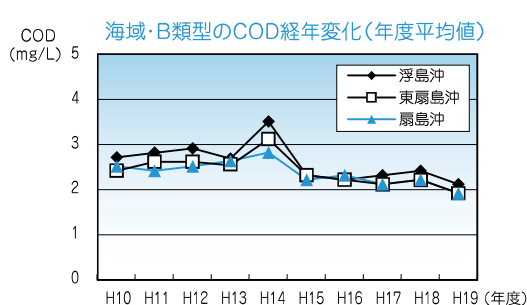
市では、「神奈川県公共用水域及び地下水の水質測定計画」及び「川崎市河川水質管理計画」等に基づき定期水質調査を実施しています。その概要は次のとおりです。

① 大公共用水域水質調査結果

●河川 代表的な指標BOD(生物化学的酸素要求量)の年度平均値で見ると、多摩川水系の市内河川(評価地点)では1.4mg/L~2.7mg/L、鶴見川水系では1.4mg/L~3.1mg/Lとなっており、下水道の整備に伴い改善していますが、近年はほぼ横ばいで推移しています。



●海域 代表的な指標COD(化学的酸素要求量)の年度平均値で見ると、本市地先の海域では1.9mg/L~3.2mg/Lとなっておりほぼ横ばいで推移しています。また、環境基準はすべての地点で適合しています。



② 地下水質調査結果

地下水質調査は、市内100地点の井戸の地下水について、市民の協力を得て実施しました。環境基準が達成されていない井戸所有者には、飲用にあたっては十分注意するよう指導しております。また、汚染原因者が確認された場合は、浄化対策等の指導を行っています。

環境基準達成状況

区分	調査	測定		環境基準等達成状況			検出状況		
		地点数	項目数	達成地点数	達成率(%)	未達成項目	地点数	検出率(%)	項目数
	調査実数	100	26	69	69.0	5	80	80.0	8
	メッシュ	45	26	42	93.3	1	30	66.7	6
	定点	9	26	8	88.9	1	9	100	4
	定期モニタリング	46	6	19	41.3	5	41	89.1	6

注1)メッシュ調査：市内全域を1kmメッシュに区切り、各メッシュごとの井戸の水質を調査。
 注2)定点調査：定点において長期的な観点から水質の経年的変化を把握する調査。
 注3)定期モニタリング調査：前年度までの結果、汚染が確認された地点において継続的に監視する調査。

問い合わせ：環境局環境対策課 ☎200-2520 FAX200-3922

平成19年度ダイオキシン類環境調査結果

市では、ダイオキシン類対策特別措置法に基づき、市内のダイオキシン類の環境調査を定期的に行っています。平成19年度調査では、次のとおり、大気、公共用水域(水質及び底質)、地下水質及び土壌について、すべての調査地点で環境基準を達成しました。

調査対象		地点数	平成19年度調査結果		環境基準
			平均値	濃度範囲	
大気	一般環境	3	0.046 pg-TEQ/m ³	0.038 ~ 0.054	0.6 以下
	処理センター周辺	16	0.040 pg-TEQ/m ³	0.028 ~ 0.057	
公共用水域	水質	10	0.16 pg-TEQ/L	0.043 ~ 0.72	1 以下
	底質	5	0.13 pg-TEQ/L	0.058 ~ 0.30	
	地下水質	14	29 pg-TEQ/g	18 ~ 42	150 以下
	土壌	22	0.023 pg-TEQ/L	0.018 ~ 0.027	1 以下
			3.4 pg-TEQ/g	0.18 ~ 19	1000 以下

問い合わせ：環境局企画指導課 ☎200-2533 FAX200-3922